

3.1 赤土等堆積状況調査結果

3.1.1 調査結果概要

各調査期SPSSランクを図 3.1-1に示した。なお、各海域のSPSSランクは海域内調査地点SPSS値の幾何平均のランクである。また、SPSS値の一覧を表 3.1-1に示した。

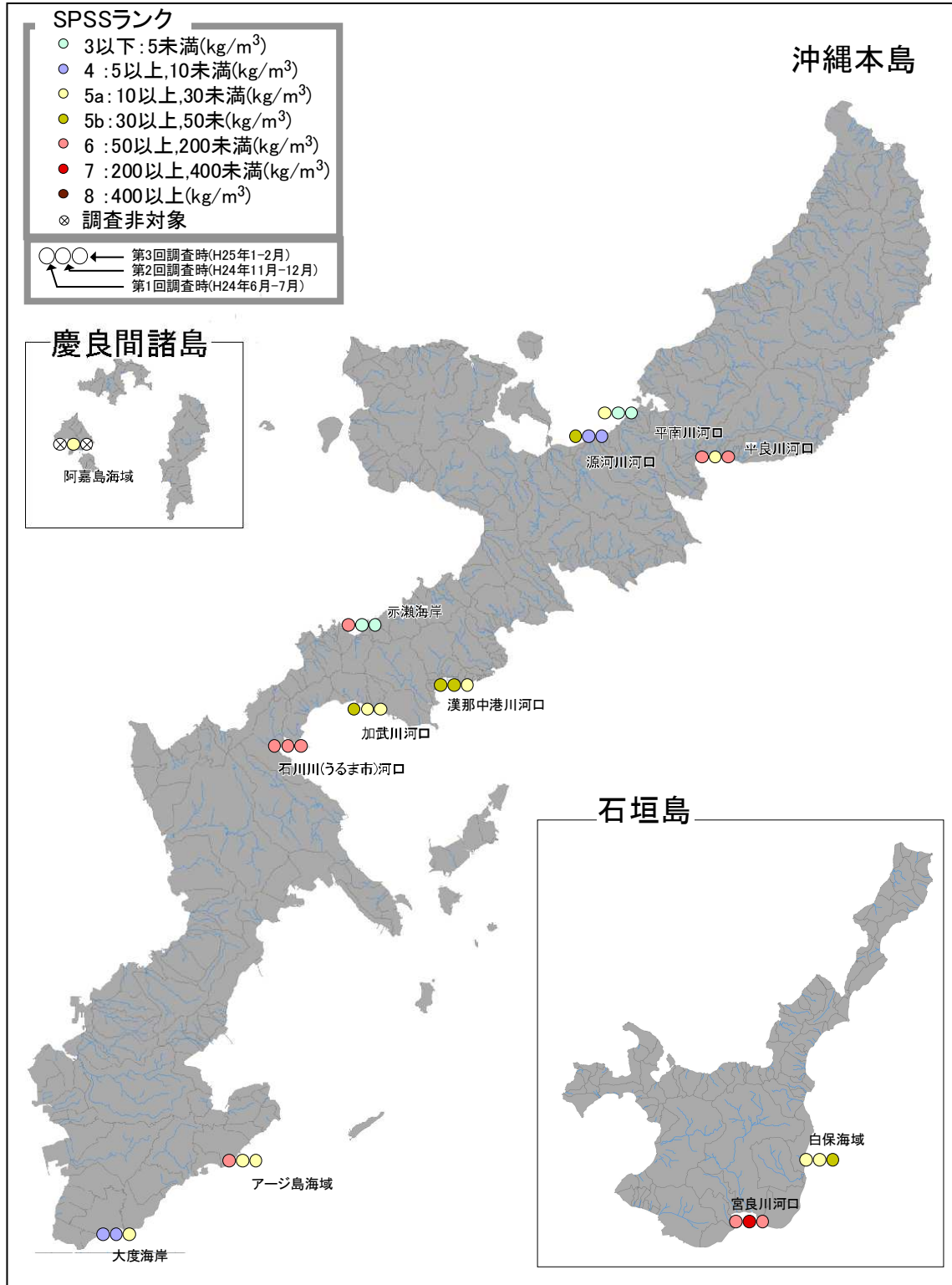


図 3.1-1 SPSS調査結果図(定点観測調査)

表 3.1-1 SPSS結果一覧

海域番号	海域名	地点名	第1回調査				第2回調査				第3回調査							
			調査日	SPSS			調査日	SPSS			調査日	SPSS						
				SPSS (kg/m ³)	ランク	幾何平均 (kg/m ³)		SPSS (kg/m ³)	ランク	幾何平均 (kg/m ³)		SPSS (kg/m ³)	ランク	幾何平均 (kg/m ³)				
沖縄本島周辺	013	平南川河口	013-No.1	6/29	16.9	5a	23.1	5a	11/10	2.4	3	2.0	3	1/30	2.7	3	2.3	3
			013-No.2	6/29	42.0	5b			11/10	1.6	3			1/30	2.7	3		
			013-No.3	6/29	17.4	5a			11/10	2.0	3			1/30	1.6	3		
	035	源河川河口	035-No.1	6/29	45.8	5b	34.0	5b	11/10	5.1	4	7.1	4	1/30	6.4	4	7.4	4
			035-No.2	6/29	119	6			11/10	23.94	5a			1/30	27.96	5a		
			035-No.3	6/29	7.2	4			11/10	2.9	3			1/30	2.3	3		
	039	赤瀬海岸	039-No.1	6/26	73.7	6	59.0	6	12/11	2.6	3	1.4	3	2/4	17.9	5a	4.7	3
			039-No.2	6/26	75.1	6			12/11	0.9	2			2/4	2.0	3		
			039-No.3	6/26	37.1	5b			12/11	1.2	3			2/4	2.9	3		
	016	平良川河口	016-01(No.1)	6/28	79.9	6	65.6	6	11/9	10.3	5a	26.7	5a	1/29	83.2	6	65.6	6
			016-02(No.2)	6/28	77.0	6			11/9	105.0	6			1/29	82.2	6		
			016-03(No.3)	6/28	45.9	5b			11/9	17.7	5a			1/29	41.3	5b		
	043	漢那中港川河口	043-01(No.1)	6/28	49.7	5b	42.4	5b	12/7	18.0	5a	35.4	5b	1/30	46.9	5b	27.7	5a
			043-No.2	6/28	34.3	5b			12/7	9.9	4			1/30	4.6	3		
			043-No.3	6/28	44.8	5b			12/7	248.5	7			1/30	98.5	6		
	048	加武川河口	048-No.1	7/1	35.6	5b	33.2	5b	11/6	13.7	5a	20.9	5a	1/28	71.9	6	29.7	5a
			048-No.2	7/1	21.8	5a			11/6	18.3	5a			1/28	23.6	5a		
			048-No.3	7/1	47.0	5b			11/6	36.1	5b			1/28	15.5	5a		
	055	石川川(うるま市)河口	055-No.1	7/1	870	8	151.6	6	11/6	818	8	76.2	6	1/28	1041	8	137.3	6
			055-No.2	7/1	23.4	5a			11/6	9.3	4			1/28	26.1	5a		
			055-No.3	7/1	171	6			11/6	58.01	6			1/28	95.25	6		
	068	アージ島海域	068-No.1	6/27	78.5	6	52.6	6	11/7	23.8	5a	28.1	5a	1/31	26.1	5a	27.5	5a
			068-No.2	6/27	42.3	5b			11/7	29.6	5a			1/31	29.8	5a		
			068-No.3	6/27	43.8	5b			11/7	31.5	5b			1/31	26.9	5a		
066	大度海岸	066-No.1	6/27	7.2	4	7.6	4	12/6	5.2	4	8.6	4	1/31	9.1	4	11.3	5a	
		066-No.2	6/27	6.6	4			12/6	8.3	4			1/31	13.0	5a			
		066-No.3	6/27	9.2	4			12/6	14.7	5a			1/31	12.1	5a			
石垣島周辺	095	白保海域	095-No.1	6/28	24.6	5a	38.4	5b	11/23	59.5	6	26.9	5a	1/31	62.7	6	49.7	5b
			095-No.2	6/28	159	6			11/23	31.85	5b			1/31	65.35	6		
			095-No.3	6/28	21.8	5a			11/23	18.3	5a			1/30	32.8	5b		
			095-No.4	6/28	25.6	5a			11/24	15.0	5a			1/30	45.3	5b		
	094	宮良川河口	094-No.1	6/28	30.3	5b	130.6	6	11/27	55.3	6	201.8	7	1/30	150.6	6	155.7	6
			094-02(No.2)	6/28	563	8			11/27	737.3	8			1/30	160.9	6		
	慶良間周辺	阿嘉島海域(110-No.1)(対照地点)							11/20	10.9	5a	13.91	5a					
阿嘉島海域(110-No.2)(対照地点)							11/20	17.8	5a									

注: 赤字・赤塗りは海域平均SPSSランク6以上を表す。

SPSS、SPSSランクおよび底質外観等との関連について「沖縄県衛生環境研究所 報第37号 pp.99-104」、「赤土等流出防止対策基本計画」を参考に図 3.1-2に示した。

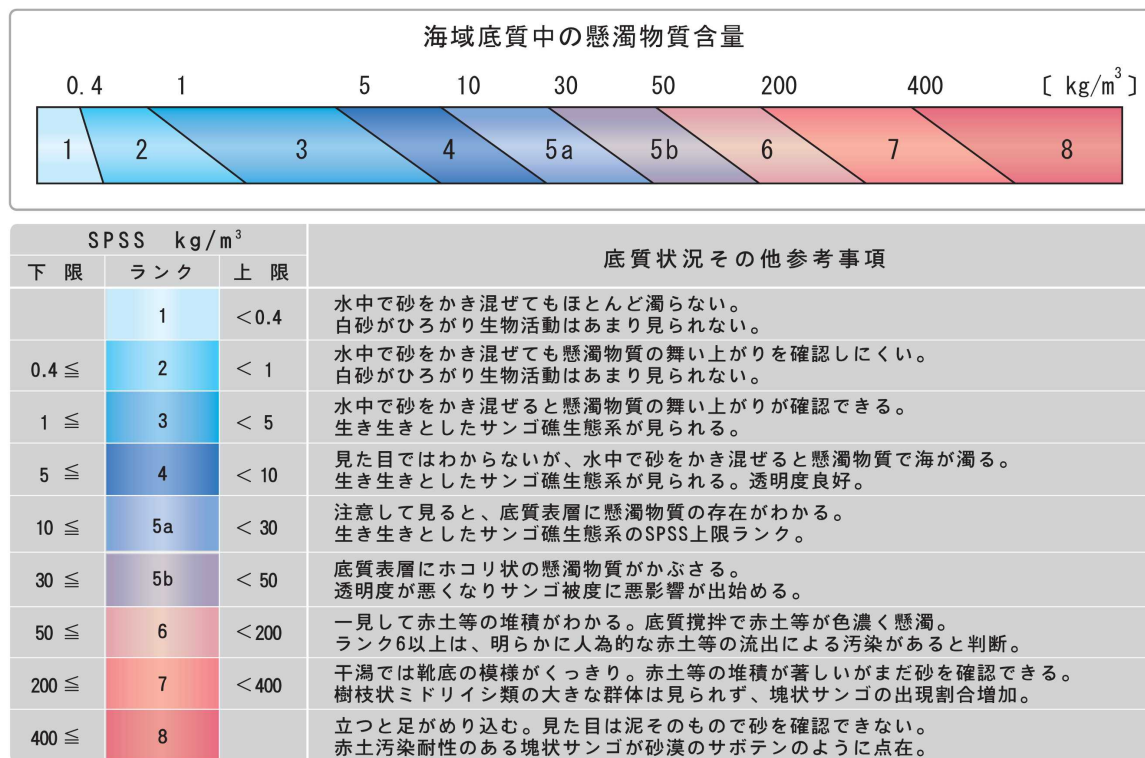


図 3.1-2 SPSS、SPSSランクと対応する底質状況その他参考事項
(「沖縄県の赤土流出について -赤土等ガイドブック-」より引用)

全海域における各回毎のSPSSランク別海域数の集計を表 3.1-2に示した。

表 3.1-2 SPSSランク別海域数一覧

	SPSSランク							海域数計	ランク6以上の割合
	3	4	5a	5b	6	7	8		
平成24年度第1回(6-7月)	0	1	1	4	5	0	0	11	45.5%
平成24年度第2回(11-12月)	2	2	5	1	1	1	0	12	16.7%
平成24年度第3回(1-2月)	2	1	4	1	3	0	0	11	27.3%

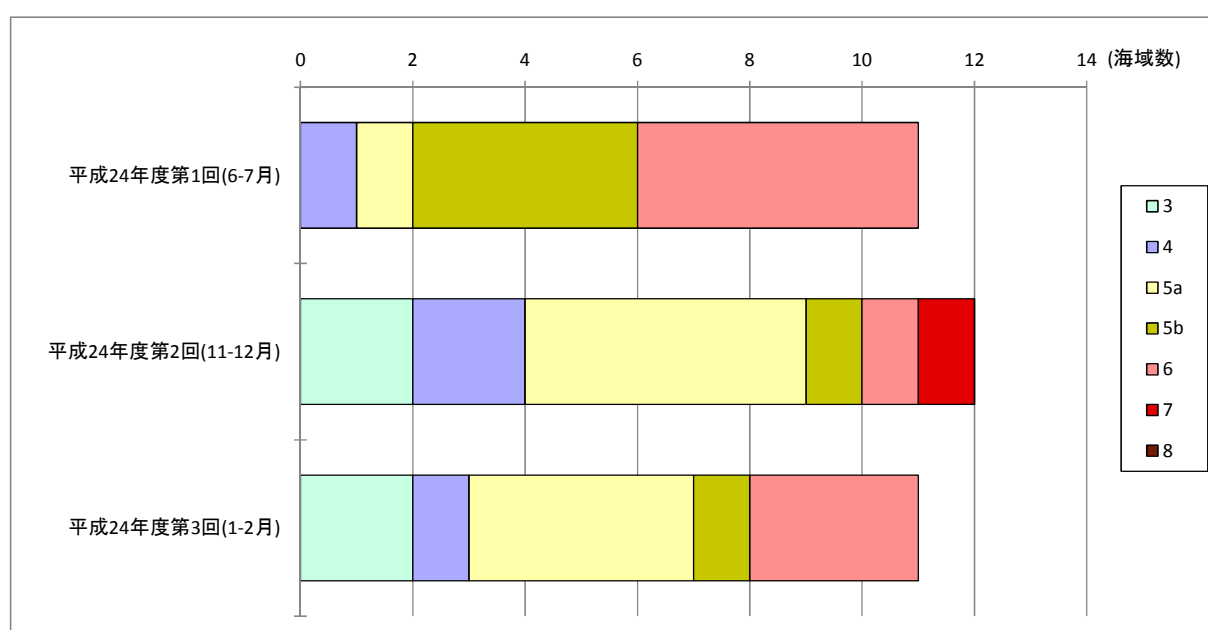


図 3.1-3 SPSSランク別海域数

明らかに人為的な影響により赤土等堆積があると判断されるSPSSランク6以上の海域割合は、第1回調査(6-7月)では45.5%、第2回調査(11-12月)では16.7%、第3回調査(1-2月)では27.3%であった。

梅雨後に当たる第1回調査において赤土等による汚染海域は比較的多く、その後台風期後に当たる第2回調査において堆積量が減少した海域が確認され、第3回調査において幾つかの海域で再び堆積量の増加が確認された。

3.1.2 海域タイプ毎の調査結果概要

海域における堆積赤土等は、海域タイプ及び海岸線の向きによって動態傾向が異なることが知られていることから、海域タイプ毎に調査海域を分類し、結果の概要を以下に述べた。なお、海域タイプ、海岸線の向きおよび調査海域の分類についての詳細は、2.1に述べた。

(1) 干瀬型

定点観測調査海域内に、干瀬型の海域は存在しない。

(2) 干瀬イノー型

干瀬イノー型北側開口の海域は、平南川河口、源河川河口、赤瀬海岸、白保海域、干瀬イノー型北側非開口の海域は、平良川河口、アージ島海域、大度海岸、宮良川河口である。

表 3.1-3に海域別にSPSSランクの推移を、図 3.1-4に干瀬イノー型海域のSPSSランク別海域数を示した。

表 3.1-3 干瀬イノー型の海域のSPSSランクの推移

	海岸線の向き	SPSSランク		
		第1回	第2回	第3回
平南川河口	北側開口	5a	3	3
源河川河口		5b	4	4
赤瀬海岸		6	3	3
白保海域		5b	5a	5b
平良川河口	北側非開口	6	5a	6
アージ島海域		6	5a	5a
大度海岸		4	4	5a
宮良川河口		6	7	6

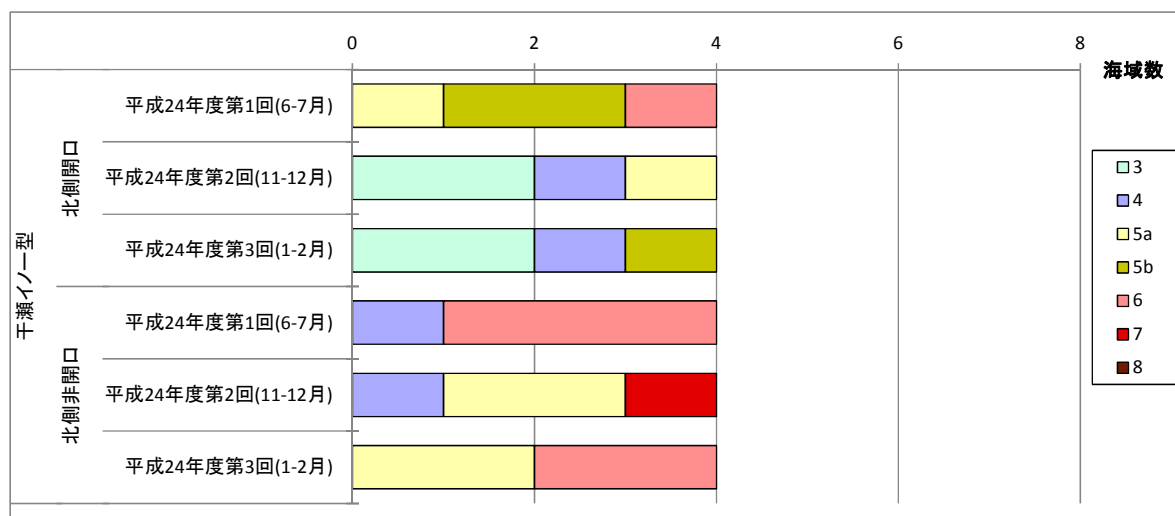


図 3.1-4 干瀬イノー型海域のSPSSランク別海域数

北側開口の海域は、第1回調査で赤瀬海岸のみランク6が確認され、他はランク5aもしくは5bであった。第2回調査時には全海域で改善し、第3回調査時には白保海域のみランク5aから5bに悪化した。他の海域では第2回調査時と同等のランクであった。

第2回調査時の改善は台風による拡散によるものと考えられる。第3回調査時には冬季季節風の影響を受け多くの海域で赤土等堆積量が増えることはなかったが、白保海域においては干瀬が発達しているため、拡散能があまり働かず赤土等堆積量が若干増加したのものと考えられる。

北側非開口の海域では、第1回調査では大度海域を除く海域でランク6であったが、第2回調査では、平良川河口、アージ島海域においてランク5aまで改善した。第3回調査では、平良川河口、大度海岸で悪化した。

第2回調査の改善は台風による拡散によるものと考えられる。第3回調査の悪化は、北側非開口の海域では冬季季節風の影響を受けないため、冬季の降雨による流出した赤土等が堆積を続けたことによると考えられる。

なお、宮良川河口は、第2回調査時に年間最大SPSSランク7を記録し、その後ランク6まで改善するなど、他の海域とは異なった推移を示した。

(3) イノー型

イノー型北側開口の海域は、定点観測調査海域内に存在しない。イノー型南向きの海域は漢那中港川河口、加武川河口である。

表 3.1-4に海域別にSPSSランクの推移を、図 3.1-5に干瀬イノー型海域のSPSSランク別海域数を示した。

表 3.1-4 イノー型の海域のSPSSランクの推移

	海岸線の向き	SPSSランク		
		第1回	第2回	第3回
漢那中港川河口	北側非開口	5b	5b	5a
加武川河口		5b	5a	5a

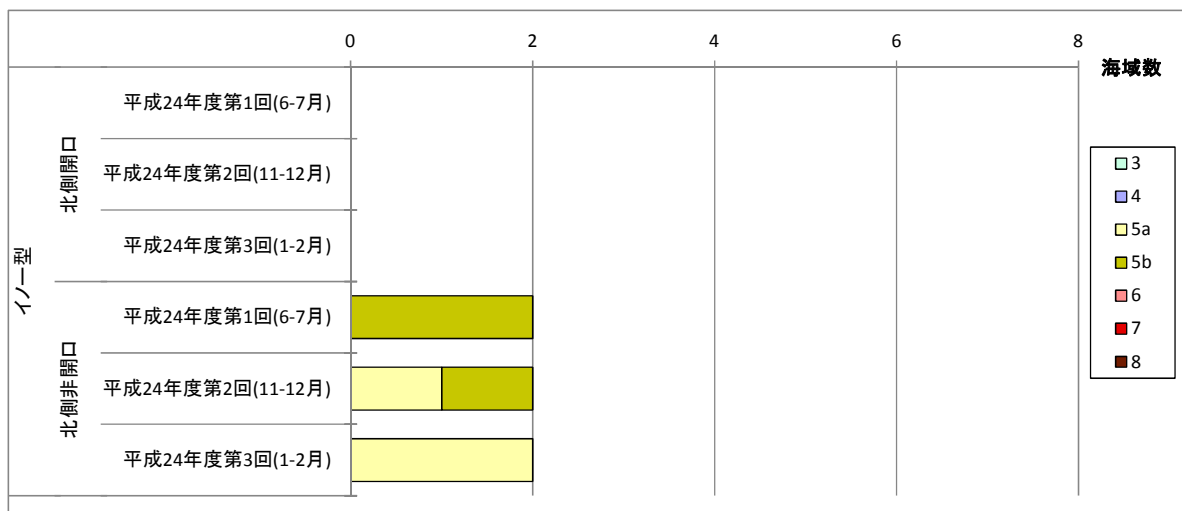


図 3.1-5 イノー型海域のSPSSランク別海域数

北側非開口の海域は、両海域とも第1回調査でランク5bであった。加武川河口は第2回調査時に改善し、第3回調査時においてもランク5aを保っていた。また、漢那中港川河口は第3回調査時にランク5aまで改善した。

第2回調査時の加武川河口の改善は、台風による拡散によると考えられる。第3回調査時の漢那中港川河口の改善および加武川河口のランク5aの維持は、北側非開口の本海域では冬季季節風の影響を受けず拡散要因はあまりないと考えられるため、この時期、陸域からの流出量が殆ど増大しなかったことによる可能性が考えられる。

(4) 内湾型

内湾型北側開口の海域は、定点観測調査海域内に存在しない。内湾型南向き海域は、石川川(うるま市)河口である。

表 3.1-5に海域別にSPSSランクの推移を、図 3.1-6に内湾型海域のSPSSランク別海域数を示した。

表 3.1-5 内湾型の海域のSPSSランクの推移

	海岸線の向き	SPSSランク		
		第1回	第2回	第3回
石川川(うるま市)河口	南	6	6	6

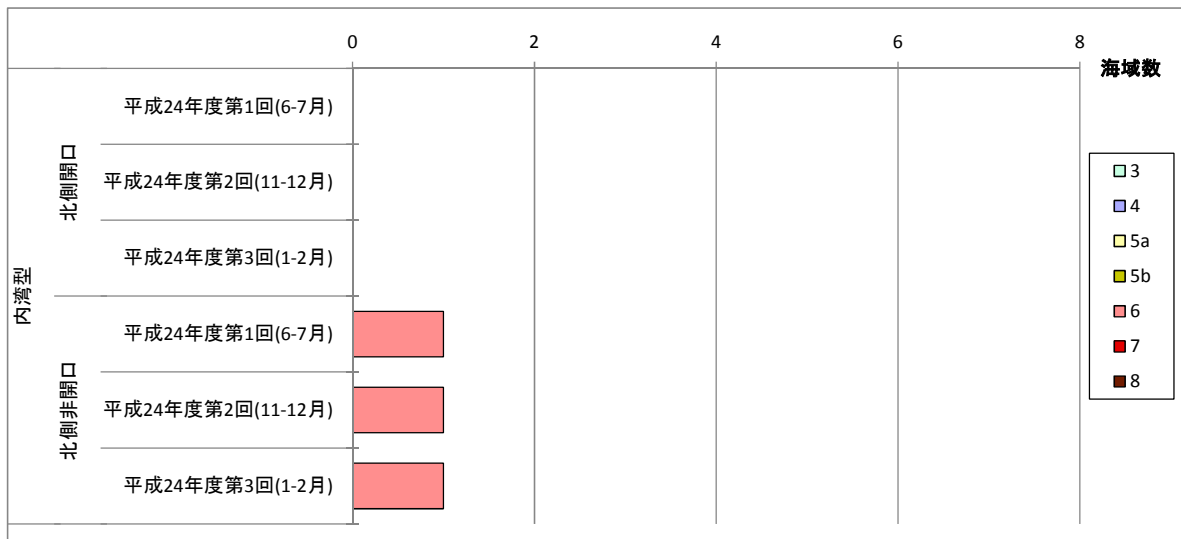


図 3.1-6 内湾型海域のSPSSランク別海域数

北側非開口の海域(石川川(うるま市)河口)は、第1～3回調査ともランク6であった。内湾型は、台風が来襲したとしても、地形上波浪が発生しにくく、一度堆積した赤土等は拡散されにくいものと考えられる。

3.1.3 評価

(1) 過年度との比較

各海域において各回海域内平均SPSSおよび年間最大SPSSを求め、平年値と比較した。

なお、本島周辺海域における第1、2回調査の平年値は、平成7～24年度、第3回調査の平年値は平成7～16年度の調査結果から算出した。石垣島周辺海域における第1、2回調査の平年値は、平成11～24年度、第3回調査の平年値は平成11～16年度の調査結果から算出した。

表 3.1-6 今年度値と平年値との比較

	第1回(梅雨後調査)				第2回(秋季調査)				第3回(冬季調査)				年間最大値			
	H24年度		平年値		H24年度		平年値		H24年度		平年値		H24年度		平年値	
	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク
平南川河口	23.1	5a	44.8	5b	2.0	3	3.3	3	2.3	3	1.7	3	23.1	5a	44.8	5b
源河川河口	34.0	5b	48.6	5b	7.1	4	11.5	5a	7.4	4	4.6	3	34.0	5b	48.6	5b
赤瀬海岸	59.0	6	24.1	5a	1.4	3	5.9	4	4.7	3	2.0	3	59.0	6	24.1	5a
平良川河口	65.6	6	113.2	6	26.7	5a	54.8	6	65.6	6	120.9	6	65.6	6	120.9	6
漢那中港川河口	42.4	5b	48.2	5b	35.4	5b	30.0	5a	27.7	5a	37.6	5b	42.4	5b	48.2	5b
加武川河口	33.2	5b	21.6	5a	20.9	5a	18.9	5a	29.7	5a	17.6	5a	33.2	5b	21.6	5a
石川川(うるま市)河口	151.6	6	130.2	6	76.2	6	113.8	6	137.3	6	146.8	6	151.6	6	146.8	6
アージ島海域	52.6	6	53.2	6	28.1	5a	35.1	5b	27.5	5a	43.9	5b	52.6	6	53.2	6
大度海岸	7.6	4	16.3	5a	8.6	4	13.4	5a	11.3	5a	16.7	5a	11.3	5a	16.7	5a
白保海域	44.0	5b	28.4	5a	26.9	5a	24.7	5a	46.0	5b	22.3	5a	46.0	5b	25.9	5a
宮良川河口	130.6	6	151.9	6	201.8	7	115.9	6	155.7	6	123.9	6	201.8	7	151.9	6
阿嘉島海域	-	-	8.5	4	13.9	5a	7.4	4	-	-	5.9	4	13.9	5a	8.5	4

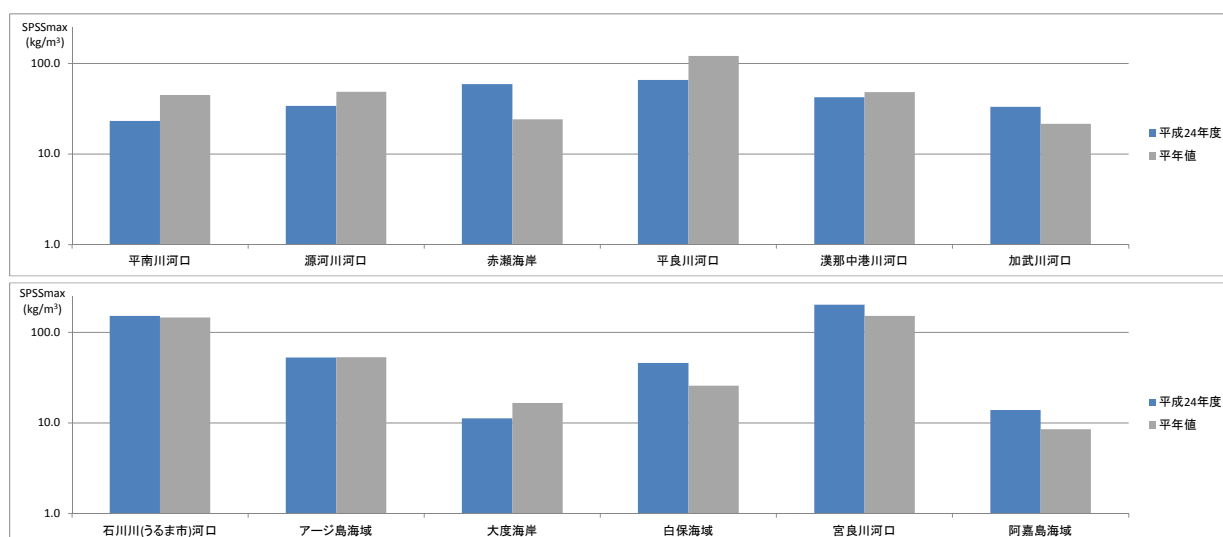


図 3.1-7 年間最大値の今年度と平年値の比較

今年度の年間最大値が、平年年間最大値のSPSSランクを上回ったのは、赤瀬海岸、加武川河口、白保海域、宮良川河口、阿嘉島海域であった。

(2) 年間最大SPSSランクによる評価

評価方法として、明らかに人為的な影響により赤土等堆積があると判定されるSPSSランク6以上の海域数(割合)を用いた。なお、評価対象のSPSSランクは、各海域内地点幾何平均の年間最大値とする。

各海域内平均SPSSのランク6以上の海域の集計を表 3.1-7に示した。

第1回調査では、ランク6以上の海域数は5で割合は45%、第2回調査では、ランク6以上の海域数は2で割合は17%、第3回調査では、ランク6以上の海域数は3で割合は27%であった。年間最大値のSPSSランクで見ると、ランク6以上の海域数は5で割合は42%であった。

年間最大値でSPSSランク6以上であったのは、赤瀬海岸、平良川河口、石川川(うるま市)河口、アージ島海域、宮良川河口の5海域であった。なお、平年値においてランク6未満の年間最大SPSSランクであったが、今年度ランク6以上に悪化したのは、赤瀬海域の1海域であった。

表 3.1-7 SPSSランク6以上の海域集計

	第1回(6-7月)		第2回(11-12月)		第3回(1-2月)		年間最大値		平年年間最大値	
	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク	(kg/m ³)	ランク
平南川河口	23.1	5a	2.0	3	2.3	3	23.1	5a	44.8	5b
源河川河口	34.0	5b	7.1	4	7.4	4	34.0	5b	48.6	5b
赤瀬海岸	59.0	6	1.4	3	4.7	3	59.0	6	24.1	5a
平良川河口	65.6	6	26.7	5a	65.6	6	65.6	6	120.9	6
漢那中港川河口	42.4	5b	35.4	5b	27.7	5a	42.4	5b	48.2	5b
加武川河口	33.2	5b	20.9	5a	29.7	5a	33.2	5b	21.6	5a
石川川(うるま市)河口	151.6	6	76.2	6	137.3	6	151.6	6	146.8	6
アージ島海域	52.6	6	28.1	5a	27.5	5a	52.6	6	53.2	6
大度海岸	7.6	4	8.6	4	11.3	5a	11.3	5a	16.7	5a
白保海域	38.4	5b	26.9	5a	49.7	5b	49.7	5b	25.9	5a
宮良川河口	130.6	6	201.8	7	155.7	6	201.8	7	151.9	6
阿嘉島海域	-	-	13.9	5a	-	-	13.9	5a	8.5	4
ランク6以上の海域数	5		2		3		5		4	
ランク6以上の海域割合	45%		17%		27%		42%		33%	

赤字: ランク6以上

赤塗り: 平年年間最大値はランク6未満であるが、今年度ランク6以上に悪化した海域

(3) 今年度調査からの陸域状況の推定(赤土等流出量の増大が懸念される陸域)

上記等による、今年度調査結果を過年度結果および平年値等と比較した結果、陸域において新たな赤土等流出源が出現した可能性等、懸念される陸域は、赤瀬海岸の流域である。この状況を踏まえ、赤瀬海岸流域については、陸域調査対象に含めた。その結果、第2回調査においては、流出源となりうる箇所が確認されており(3.4参照)、引き続き注視が必要である。

(4) 経年比較

図 3.1-8に、経年的な年間最大SPSSランク6以上の海域数の推移および那覇観測所における年間総雨量の推移を示した。

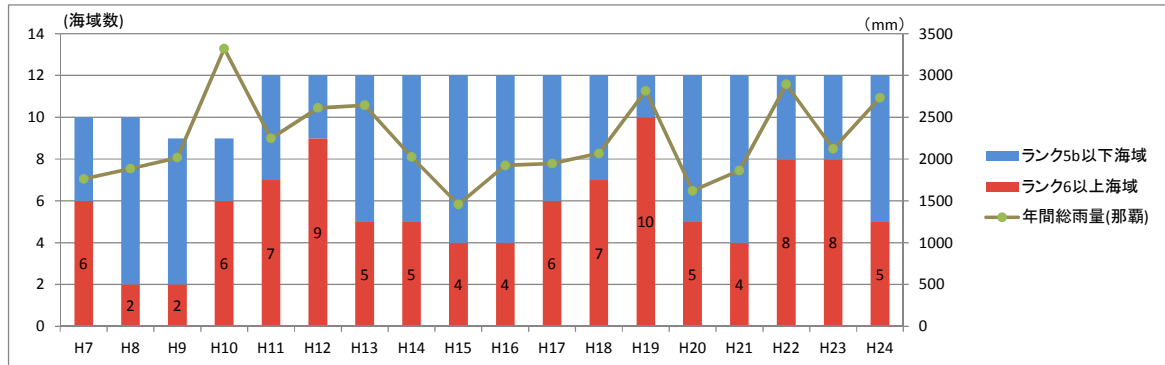


図 3.1-8 年間最大SPSSランク6以上の海域数の推移
および那覇観測所における年間総雨量の推移

SPSSランク6以上の海域数は2～10の範囲で変動しており、経年的にランク6以上の海域が減少している状況は確認されない。

年間総雨量と比較してみると、SPSSランク6以上の海域数は、雨量の増減に伴って増減している状況が確認される。このことから、海域における赤土等堆積量は降水量の影響を顕著に受けていると考えられる。

なお、今年度は比較的総雨量が多いにも関わらず、ランク6以上の海域数は比較的少ない状況にあった。これは、梅雨時期の台風の来襲により堆積赤土等が拡散した事による影響である可能性が高い。

3.1.4 経年結果

赤土等堆積状況調査は、過年度と同じ地点[沖縄本島調査域(9調査海域・河口域、27定点)、石垣島調査域(2調査海域・河口域、6定点)、阿嘉島調査域(1調査海域、2定点)]で、継続して実施している。

沖縄本島の調査海域では、今年度調査を含め平成7年度から平成23年度にかけて、合計54回調査を行っている(平成9年度は沖縄県衛生環境研究所データを含めた)。平成7～16年度の調査では、梅雨前(5月前後)、梅雨明け後(7月前後)、台風シーズン終了後の秋季(10月前後)、季節風の影響後(2月前後)の年度内4回調査を行っており、平成17～23年度の調査では、梅雨明け後(7月前後)、台風シーズン終了後の秋季(10月前後)の年度内2回調査を行っている。

石垣島の調査海域では、今年度調査を含め平成11年度から平成23年度にかけて合計45回調査を行っている。平成11年～16年度の調査では、沖縄本島調査域と同時期に年度内4回調査を行っており、平成17～23年度の調査では、梅雨前(5月前後)、梅雨明け後(7月前後)、台風シーズン終了後の秋季(10月前後)の年度内3回調査を行っている。

阿嘉島調査域は、赤土等流出汚染の見られない海域代表として、今年度調査を含め平成7年度から平成23年度にかけて(平成9、10年度を除く)、合計20回調査を行っている。平成7年度の調査では、9、10、12、3月の年度内4回調査を行っており、平成8～23年度(平成9、10年度を除く)では、台風シーズン終了後の秋季(10月前後)に年度内1回調査を行っている。

ここでは、各海域の経年結果を図 3.1-9、図 3.1-10に示した。図 3.1-9では、過年度各季SPSSランクを示し、図 3.1-10では過年度各年間最大SPSSランクを示した。なお、ここでは、一年を、梅雨前(4-5月)、梅雨後(6-7月)、秋季(10-12月)、冬季(1-3月)に分け、過年度調査結果の内、この期間に含まれない調査結果については、省いて表示した。また、同年度、同季内に2回以上調査している場合は、各季の中間日に近い調査結果を採用した。

さらに図 3.1-11に各海域別に経年推移を示した。また、図 3.1-12に那覇、名護、石垣島の期別経年降水量を示した。

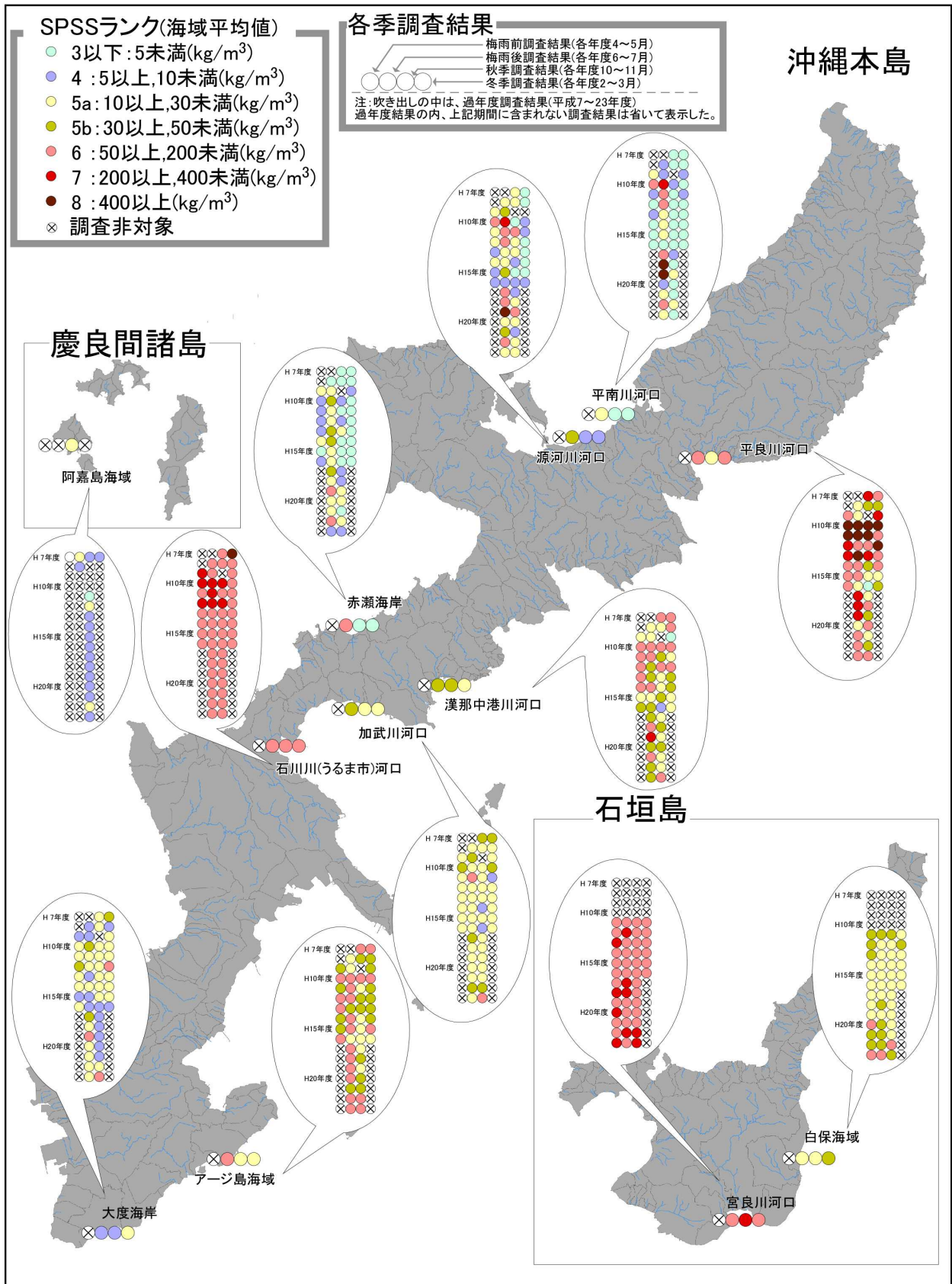


図 3.1-9 過年度調査結果図 (過年度各季SPSSランク表示版)

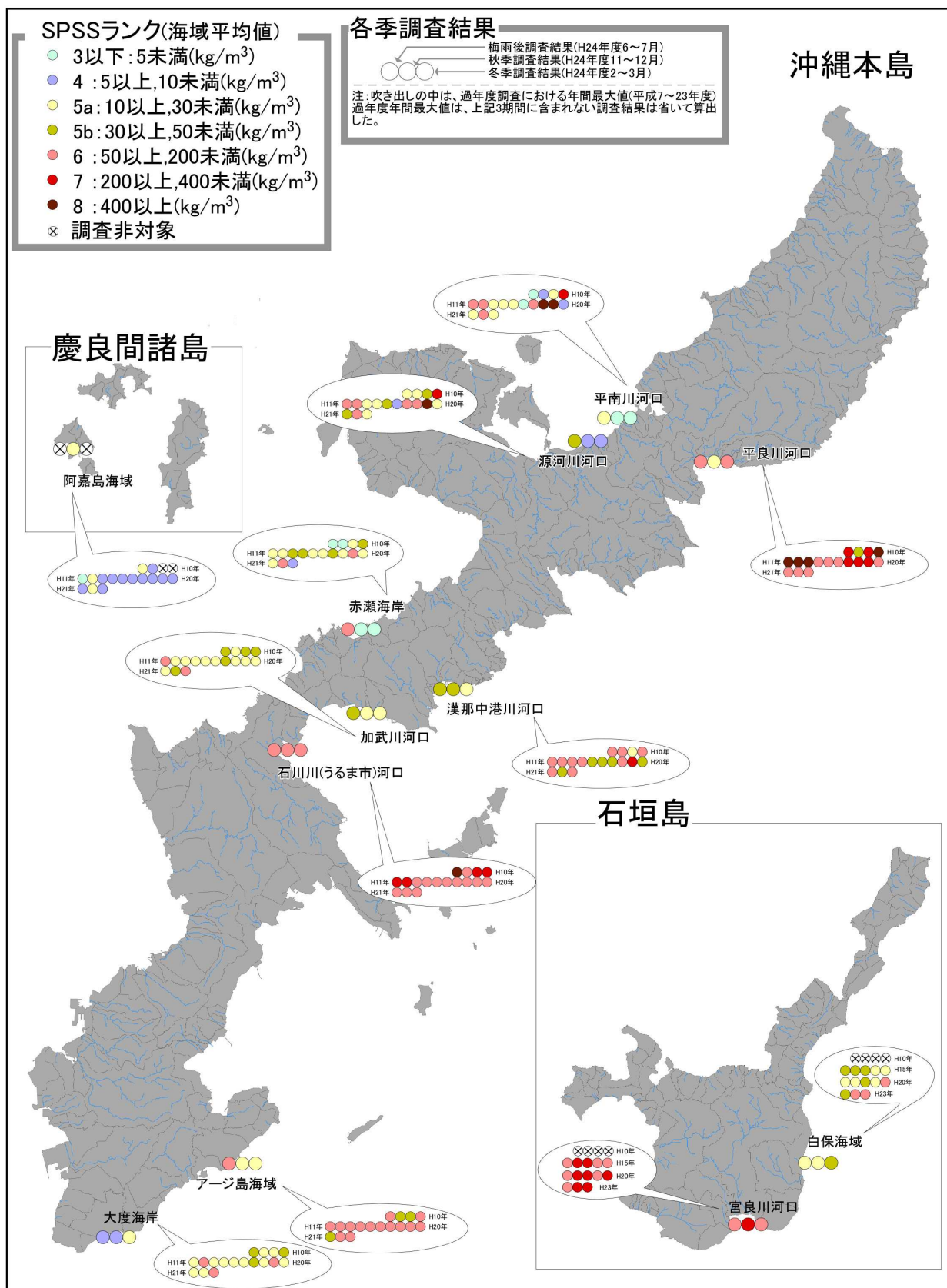


図 3.1-10 過年度調査結果図 (過年度各年度最大ランク表示版)

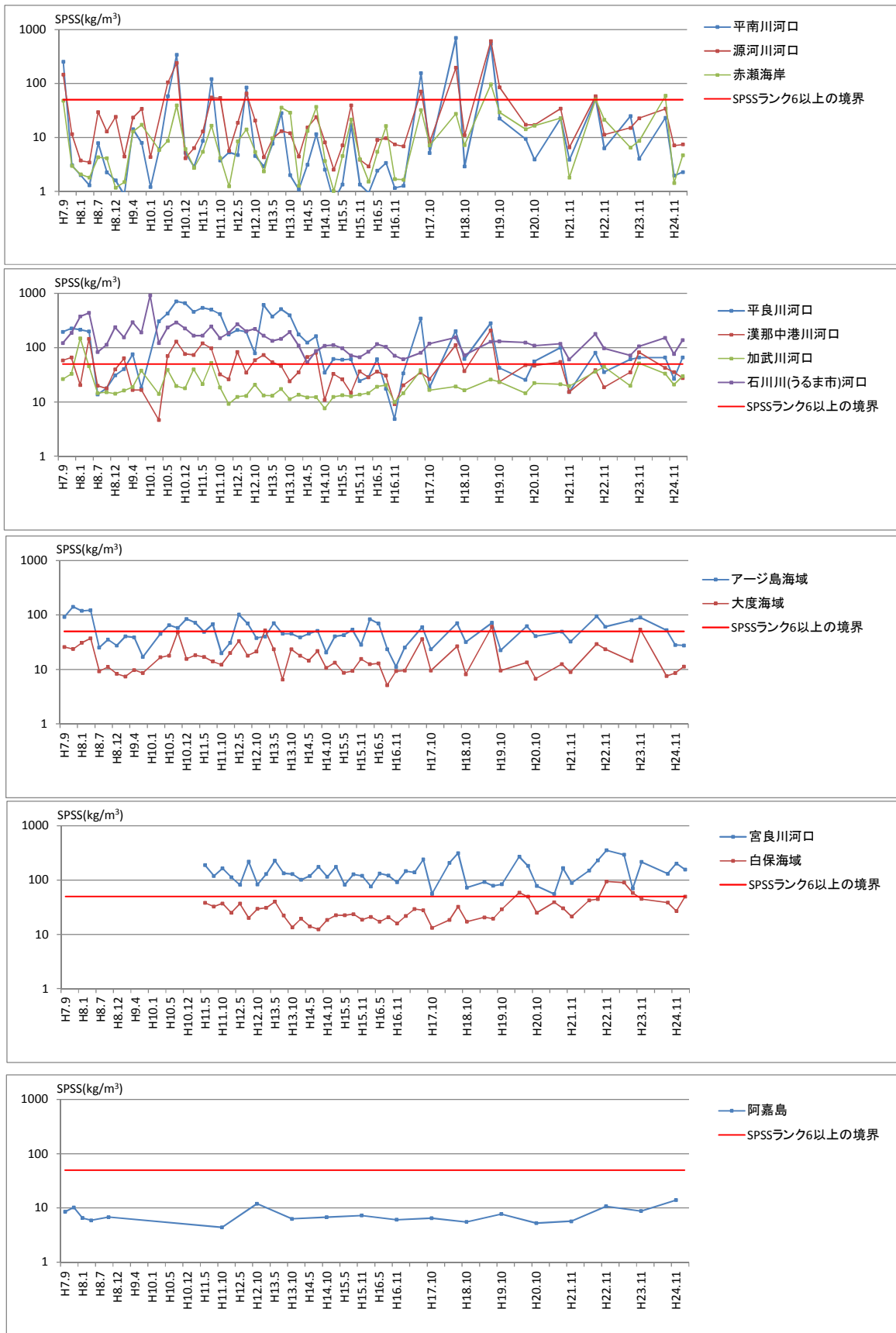


図 3.1-11 海域別経年SPSS推移状況

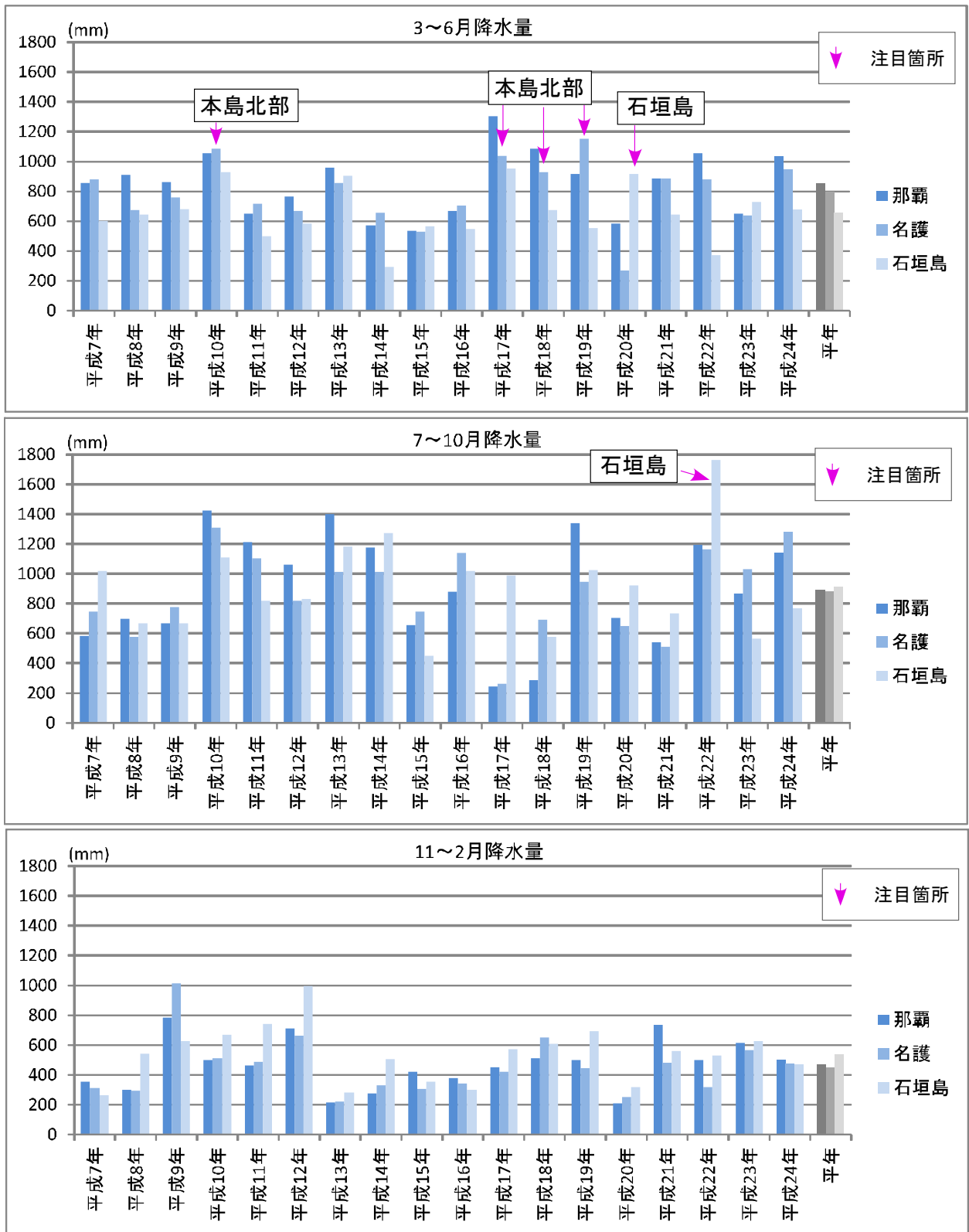


図 3.1-12 期別経年降水量(那覇、名護、石垣島)

図 3.1-9～図 3.1-12の情報を用い、各海域における経年変化の概要を以下に示した。

(1) 平南川河口、源河川河口

平南川河口、源河川河口では、平成10～13年、平成17～19年および平成22年度において、主に梅雨後にSPSSランク6以上を記録した。名護における3-6月期の降水量をみると、平成10年度(1083.5mm)、平成17年度(1037.5mm)、平成18年度(926.5mm)、平成19年度(1151mm)では高雨量であり、SPSSランク6以上を記録した年と一致する。この2海域においては、梅雨時を含む3-6月の降雨量の高かった年度の梅雨後調査において、SPSSランクが悪化する傾向が確認された。

(2) 赤瀬海岸

赤瀬海岸では、経年的に殆どSPSSランク5b以下であるが、時々(平成19年度梅雨後、平成22年度梅雨後、平成24年度梅雨後)ランク6が確認されている。これらの年度においては、特に降水量が多いわけではないことから、流出源が陸域に発生し、単発的に赤土等が流出したものと考えられる。

(3) 平良川河口

平良川河口では、梅雨後においてはほぼ毎年ランク6以上が確認されている。秋季においてはランクが改善する年もあるが、冬季においては、またランク6以上に悪化する。

平成10年からの5年間程は年中赤土等が堆積した状態であったが、その後はいったん秋季において堆積量が減少する年度が多くなった。また、平成17～19年度の梅雨後調査においてはランク7を連続して観測したが、この3年の3-6月期は多雨であったことと一致する。

(4) 漢那中港川河口

漢那中港川河口では、平成10年からの5年間程は頻繁にSPSSランク6が確認されてきたが、それ以降はランク6は梅雨後調査時に時々見られるようになった(平成18～19、21年)。このうち、平成18、19年度については、3-6月期は多雨であったことと一致する。

(5) 加武川河口

加武川河口では、経年的に殆どSPSSランク5b以下であるが、時々(平成11年度梅雨後、平成23年度秋季)ランク6が確認されている。加武川の流域は、米軍基地が広がっているが、これらの年度においては、特に降水量が多いわけではないことから、流出源が基地内に発生し、単発的に赤土等が流出した可能性が考えられる。

(6) 石川川(うるま市)河口

石川川(うるま市)河口では、調査開始から現在まで常にSPSSランク6以上である。本海域は内湾型であり拡散が起こりづらいことから、堆積が続いているものと考えられる。なお、陸域調査において農地からの著しい赤土等の流出が確認されたことから、赤土等堆積量は増大しているものと考えられる。

(7) アージ島海域

アージ島海域では、梅雨後においてはほぼ毎年ランク6が確認されている。平成10年、平成22、23年度においては、ランク6が年間を通して継続したが、殆どの年で秋季においてはランク5b以下に改善されている。

(8) 大度海岸

大度海岸では、経年的に殆どSPSSランク5b以下であるが、時々(平成12年度冬季、平成19年度梅雨後、平成23年度秋季)ランク6が確認されている。大度海岸においては平成9年に大度洞穴の下流地下水脈にコンクリート堤体が打設され、農農業用水かんがいダムが建設されて以降、30～40mmの降雨でも濁水が大度洞穴から湧出し、側溝から大度海岸へ流出しており、地下ダム建設に伴う地下水位の上昇が影響しているものと懸念される(「海域における赤土汚染モニタリング 沖縄県衛生環境研究所報第34号(2000) pp.85-95」を参照)。

(9) 白保海域

白保海域では、経年的に各季ともSPSSランク5aもしくは5bで推移してきたが、平成20年度の梅雨前、および平成22年度の秋季から3季連続ランク6を記録した。石垣島における降水量をみると、平成20年度3～6月においては、平年以上の降雨があった。また、平成22年度の7-10月期においては、観測史上最大量の降雨があり、それにより多量の赤土等が流出し、その影響が3季に渡り残り続けたと考えられる。

(10) 宮良川河口

宮良川河口では、調査開始から現在まで常にSPSSランク6以上を保っている。本海域は海域タイプは干瀬イノー型であるが、湾であり拡散が比較的起こりづらいこと、また、陸域からの農地からの著しい赤土等の流出量が著しいことが推定されており(「2.3陸域情報」参照)、継続的に赤土等が堆積しているものと考えられる。

(11) 阿嘉島海域

阿嘉島海域は当初から、赤土等の堆積のない対照海域としてモニタリング調査が継続されてきた。経年結果においても、ほぼSPSSランク4であり、清浄な状態を保っている。